医療安全の文化醸成のための 当院の取り組み

平尾素宏[†] 下司有加 渋谷博美
西村健作 山本司郎 宇都本理夫

第77回国立病院総合医学会
2023年10月21日 於 広島

IRYO Vol. 79 No. 2 (72-76) 2025

要旨

病院職員個々が医療の質と安全を確保することは職員の責務であることを自覚し、職員全員で医療安全に取り組んでいくことが大切である。そのために、病院組織における医療安全の文化・風土の醸成が非常に重要である。今回、医療安全文化醸成のために国立病院機構大阪医療センターが行っている取り組みを紹介する。

キーワード 医療安全, 病院組織, 医療安全文化醸成

はじめに

厚生労働省が医療安全文化を、「医療に従事するすべての職員が、患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方、およびそれらを可能にするあり方」と提言しているように¹⁾、職種を問わず、病院職員個々が医療の質と安全を確保することは職員の責務であることを自覚し、全員で医療安全に取り組んでいくことが大切である。

また近年、医療事故については、病院の医療安全文化のレベルまで掘り下げて原因分析が行われるようになってきた。これは、医療の高度技術化・細分化やリスク構造の複雑化と、リスク低減に対する社会的要求の高度化によって、医療体制や院内マネジメントシステムの信頼性向上だけでなく、組織文化・風土などの、より本質的な部分にまで管理対象の範囲が拡大してきた結果である。組織における医

療安全の文化・風土の醸成は、きわめて重要である²⁾。

国立病院機構大阪医療センターは2022年10月現在、運営病床数572床、職員数1,456名（医師270名、看護師654名、その他メディカルスタッフ532名）の急性期総合病院で、医療安全管理部は専従の医療安全管理者（看護師）、医師（医療安全管理部長ほか3名）、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、医療放射線安全管理者、および各部署の医療安全推進担当者54名より構成され、医療安全対策加算1、医療安全地域連携加算1を取得している。

今回、医療安全文化醸成のために当院が行っている取り組みを紹介する。

1. インシデント・アクシデント報告の詳細分析、そして迅速な防止対策提案と実行

国立病院機構大阪医療センター 医療安全管理部 [†]医師
著者連絡先：平尾素宏 国立病院機構大阪医療センター 医療安全管理部
〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14
e-mail: hirao.motohiro.kd@mail.hosp.go.jp
(2024年3月25日受付 2024年8月2日受理)

Approaches for Fostering a Culture of Medical Safety at Our Institution
Motohiro Hirao, Yuka Shimoji, Hiromi Shibuya, Kensaku Nishimura, Shiro Yamamoto and Masao Utsumoto
NHO Osaka National Hospital

(Received Mar. 25, 2024, Accepted Aug. 2, 2024)

Key Words: patient safety, hospital organization, culture breeding of the medical safety